

2 体験活動の充実

(1) 多様な体験活動

ア 小学校

① キャリア教育に関わる体験活動の意義

小学校段階は、進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期として位置付けることができます。日常生活の様々な体験活動を通して、「大きくなったら何になりたいか?」「どんな人になりたいか?」というような「夢」「希望」「あこがれ」をもち、児童が自らの将来の生き方について考えることができるようにすることが大切です。

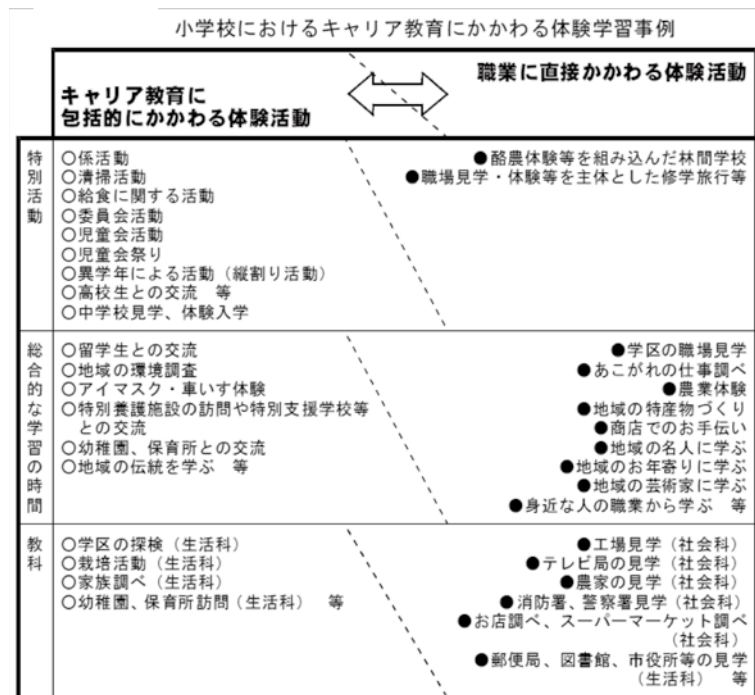
成長の過程と体験活動の工夫の観点

小学校 低学年	小学校 中・高学年
体験活動から「気付き」が生まれる時期	社会へ視野が広がっていく時期
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの中で活動がつながるようにする。 ・場になじみ、安心して活動できるようにする。 ・自分たちの生活と活動がつながるようにする。 ・物事の本質に根ざした気付きが生まれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分との関わりを明確にして、主体的に取り組めるようにする。 ・社会に目を向け、多くの人々と関われるようにする。 ・体験活動と教科等での学習をつなげる。 ・体験活動を振り返り、その意味を考えさせる。

より実効性のある体験活動を実施していくために重要なポイントとなるのは、「体験を通して何を学ぶのか」といった、そのねらいを明確化することです。具体的実践において大切なことは、その体験を通して、「子どもたちにどのような力が身に付くのか」また、「子どもたちが自分自身の生き方についてどのように考えるのか」等を視点に学習活動を展開していくことです。

② 体験活動の実際(右資料参照)

「キャリア教育に包括的にかかわる体験活動」とは、集団の中での自己の役割を自覚しながら、円滑な人間関係を築く力(社会性)を養い、自己有用感と自分の夢や目標を前向きに描き、挑戦しようとする力(自立性)を育む活動です。また、「職業に直接関わる体験活動」とは、勤労観・職業観に関わる職業や働くことを軸にした活動です。同じ体験活動であっても、そのね



らいによってどちらの観点に比重がかかるのかは当然変わってきます。例えば、職場見学に焦点化した修学旅行を計画した場合は、職業に直接関わる勤労観や職業観の基盤形成をねらった修学旅行ということになります。 ※参考：国立教育政策研究所『キャリア教育体験活動事例集』

イ 中学校

①キャリア教育に関わる体験活動の意義

中学校においては、小学校で育まれた自己及び他者への積極的な関心や、将来への夢や希望、勤労を重んじる態度等の基盤をもとに、生徒一人一人が自分独自の内面の世界があることに気付き、個性の発見・伸長を図り自立心を養いながら、社会への視野を広げつつ、自己と社会を結び付けていくことが重要です。

成長の過程と体験活動の工夫の観点

中学校
内面との結び付きが意味をもつ時期
<ul style="list-style-type: none">・自分の内面の世界を表現させる。・級友とともに活動し心を揺さぶられる体験をさせる。・大人の世界に加わり一定の役割を果たすようにする。・自分の取組を社会に発信させていく。

②体験活動の実際

体験活動の内容は、キャリア教育の理念や考え方、機能等の広さにより、その基盤となる生き方を包括的に捉えた体験活動（福祉、奉仕、国際理解、環境、生徒指導等をねらいとしたもの）から、職場体験に代表されるような働くことや職業を通して、勤労観・職業観の育成を直接的なねらいとした体験活動まで、その活動内容は多種多様です。

今後自校のキャリア教育に関わる体験活動のさらなる充実に向けて、以下のような点が改善の工夫のポイントと考えられます。

- 学校教育全体における位置づけ(学校の活性化に向けてのキャリア教育の推進)
- 指導計画の改善と見直し(工夫ある全体計画、指導計画、題材系統図等)
- 学びと社会との関わりの視点
- 体験活動のねらいの明確化
- 体験活動等の在り方の工夫(日数、回数、複数学年での実施、体験先との連携等)
- 地域性を生かした体験活動(伝統、文化、歴史、自然、地域等)
- 関係諸機関、行政、NPO 団体等との連携(コーディネーター等の配置と連携)
- 保護者との連携や活動参加への工夫
- 学校の指導体制、組織の工夫
- 体験活動の事前・事後指導の充実
- 体験活動の評価の在り方 等

※参考：国立教育政策研究所『キャリア教育体験活動事例集』

ウ 高等学校

①キャリア教育に関わる体験活動の意義

高校生のキャリア発達段階は「現実的探索・試行と社会的移行の準備の時期」にあつて、そのキャリア発達課題は「自己理解の深化と自己受容」、「選択基準としての勤労観・職業観の確立」、「将来設計の立案と社会的な移行の準備」、「進路の現実的吟味と試行的参加」にあるとされています。

成長の過程と体験活動の工夫の観点

高等学校
大人の社会を展望する時期
<ul style="list-style-type: none">・自分の力を伸ばし、挑戦させる。・実際の現場を知り、社会の問題について考えさせる。・人に尽くしたり、社会に役立つことに取り組ませる。・自分がかげがえのない存在であることを実感させる。

そこで、高等学校における体験活動が、その事前・事後の適切な指導を含めて、どのような意義があるのかを、「現実的探索・試行と社会的移行の準備の時期」にある高校生のキャリア発達課題に照らしてみれば、次のように指摘することができます。

まず第1に、高校生の職場訪問・見学やインターンシップといった体験活動は、中学校における職場体験などを基盤として、改めて、社会人・職業人としての勤勉さや責任感あるいはルールやマナーを学ぶとともに、職場での異年齢、特に年齢差の大きな大人との交流を通して、言葉遣いをはじめとする礼儀など、異年齢の人々とのコミュニケーションの仕方を身に付け、社会人・職業人としての能力、態度を一層高めることができます。また、このような体験を通して、規則正しく、かつ、節度ある言動で学校・家庭・社会生活を送ることの意義や大切さを理解することができます。

第2に、上記の職業に関わる体験活動及び上級学校に関する体験活動は、近い将来における社会参加を視野に入れながら職業に対する理解を一層深めて、明確な進路希望としての職業の選択に役立てたり、その希望する職業に就くための進路としての進学先の選択に役立てたりすることができます。また、このように明確な進路希望を形成し、その実現の方途を探索することは、今、学校で何を学ぶべきか、学ばなければならないかを理解し、教科・科目やコースの選択に役立てたり、学習や活動の意欲を高めることにもつながります。これらのことは、キャリア発達の課題に照らせば、「進路の現実的吟味」であり、「試行的な参加」とみることができます。しかも、明確な進路希望としての職業選択は、職業や働くことを通してどのように生きていくのかという「生き方」を考え、選択決定することでもあり、それは、「将来設計・進路設計」に基づく「選択基準としての勤労観・職業観の確立」というキャリア発達課題を達成するということでもあります。

また、希望する進路を実現するために、上級学校とその学部・学科や分野及び教科・科目やコース等を選択して、学習や活動に意欲的に取り組むことは、「社会的な移行の準備」の過程とみることもできます。加えて、専門高校等の生徒が、デュアルシステムによって実際の・実践的に職業に関する知識や技術・技能を学ぶ体験的な学習活動や、地元企業の熟練技術者を学校に招いて高度な技術について指導を受ける体験は、「進路の現実的吟味と試行的参加」であり、「社会的な移行の準備」でもあると言えます。

第3に、高校生の体験活動は、生徒が自己の個性や職業適性を改めて考えたり、今まで気

が付かなかった自己の特性や長所を見いだすことにもなったりするなど、「自己理解の深化」を図るまたとない機会でもあります。また、インターンシップやデュアルシステムでの勤労体験の過程で、職場での働きぶりを高く評価されたり、顧客から褒められ、感謝されたりする経験は、自己の社会的な存在意義を感得し、社会参加への自信を深めて、「自己受容」する機会となります。

②体験活動の実際

高等学校では、特別活動の学校行事や総合的な学習の時間、専門学科、総合学科における課題研究、総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」、専門教科の科目及び学校設定科目など、多様な教育課程上の位置付けで、次のような体験活動が実施されています。

ア 職場や研究機関の訪問・見学
多くの高校で幅広く実施されています。普段接することができない、遠く離れた場所で活躍する卒業生の職場や研究機関などを修学旅行を利用して訪問・見学し、卒業生の生き方、進路などについて話を聞き、将来の生き方、進路の多様な選択可能性を理解する特色ある取組も見られます。
イ 地域の職業人に職業・生き方を学ぶ調査活動
生徒が興味・関心を抱いたり、憧れている地域の職業人にインタビューをして、その職業や生き方について学ぶ学習活動は、「産業社会と人間」や総合的な学習の時間における職業・進路理解あるいは進路研究の学習として取り組まれています。
ウ インターンシップ
教育課程上多様な位置付けで、専門高校を中心として多くの高校で実施されています。
エ デュアルシステム
本来、ドイツにおける職業教育の方式です。我が国では、企業等の現場で实际的・実践的に職業に関する知識や技術・技能を学ぶ「日本版デュアルシステム」として推進されています。
オ 熟練技術者を学校に招いての技術指導
インターンシップやデュアルシステムは、生徒が学校から職場に出向いての学習活動であるのに対して、この取組は、いわば逆方向の取組で、地域の教育力を学校教育に組み入れようとするものです。
カ 学校オリジナル商品を開発し、それを商店街の空き店舗を利用して販売
商業高校におけるデュアルシステムあるいはアントレプレナーシップ教育として、学校オリジナル商品を開発、製造したり、他の専門高校が製造した商品を取り寄せたりして、それらを地元商店街の空き店舗で、商店街の店主などの指導を受けて販売する学習活動で、「課題研究」や学校設定科目に位置付けられて取り組まれています。
キ オープン・キャンパスや上級学校の授業の受講（出前授業・出張講義を含む）
ク その他の体験活動
○奉仕体験 ○保育体験や育児体験及び福祉体験や看護体験 ○自然体験や農業・漁業体験 ○国際理解にかかわる体験

※参考：国立教育政策研究所『キャリア教育体験活動事例集』

自然にかかわる体験活動（「野内川を知ろう」）例

青森市立東陽小学校

■ポイント

- ・キャリア教育で育てたい力が位置付けられています。
- ・他教科等との関連が明確で、児童にとって見通しが立てやすい単元構成になっています。

1 単元名 野内川を知ろう

2 ねらい

(1) 総合的な学習の時間

身近な川について自分なりの問題意識をもつことによって、仲間と協力して調べることができる。調べたことをまとめ、伝え合う活動を通し、分かりやすい資料の作り方や発表の仕方を身に付けることができる。

(2) キャリア教育【社会とつながる力】

社会生活には、いろいろな役割があることを知り、仕事における役割の関連性や変化に気付くことができる。

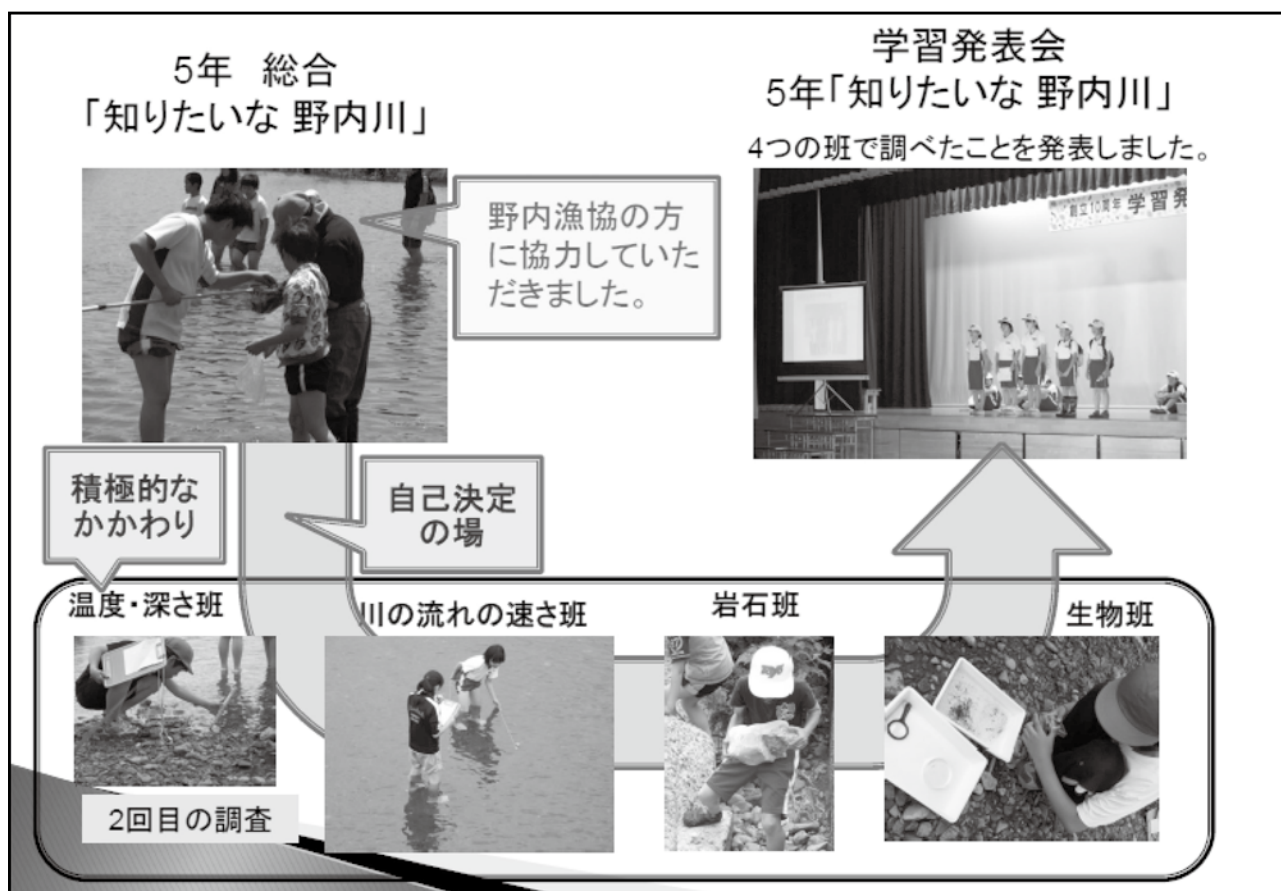
必要な情報を適切な方法で、意欲的に集めることができる。

3 全体計画

時	学習の流れ	活動内容	備考
1	事象提示	・野内川について、知っていることや知りたいことを出し合う。 ・問題意識をもつ。 *どんな生き物がいるのか。 *川の長さはどのぐらいあるのか。 *なぜ水がきれいなのか。など	・ウェビングをし、問題意識をもたせる。
2	予備調査	・川の生き物についてインターネットで調べる。 *川に棲む生き物について調べる。 *鮭の一生について調べる。など	・コンピュータ室で調べる。
3	観察計画1	・野内川に行く計画をする。	
4 ・ 5	観察1 (1学期)	・野内川に行き、川の様子や生き物の観察をする。 *魚、ヤゴ、流木、石の裏の卵 など	・安全確保のため、保護者に協力を要請する。 ・野内漁協の方に協力を要請する。
6 ・ 7	観察計画1	・観察したことを出し合い、調べてみたいテーマを決める。 *なぜ魚がいっぱいいるのか。 *川がきれいなのはなぜか。 *魚はどんなところにいるのか。 *川の流れの速さと温度は関係があるのか。 *どんな魚の種類がいるのか。 *どんなゴミが落ちているのか。	
8	観察計画2	・テーマごとにグループを決め、観察の準備をする。 *準備物、観察の手順、役割分担等	
9	観察2	・野内川に行き、協力して自分達の課題について調べ、写真を撮る。	・安全確保のため、

10	(2学期)	たり記録したりする。	保護者に協力を要請する。 ・野内漁協の方に協力を要請する。
11 ～ 14	まとめ	・調べた資料をもとにデータを整理する。 ・グループごとに観察してきたことや分かったことを絵や図、表やグラフを使ってまとめる。	
15 ～ 17	発表練習	・発表の練習をする。	
18	発表	・下学年に向けて発表する。	
19	事後指導	・振り返りをする。	

□関連教科 理科「流れる水のはたらき」



4 実施上の留意点

- ・広い自然の中で活動すると、つい目先の生き物を追うことに興味・関心が向いて、自分達の課題を忘れしやうことが予想されます。2回目の川での活動は、1回目で興味・関心をもった課題を解決するための調査活動です。目的意識をしっかりとせ、仲間と協力して調べられるように事前の準備が大事です。
- ・季節によって、生き物の成長がはっきり分かります。また、天候によって川の水が増水したり、流れが速くて活動できなかつたりします。保護者に協力を依頼したり、活動日の直前に実地踏査をしたりして、安全に活動できるように配慮をすることが大事です。
- ・ペアで活動することにより、仲間と協力してデータを集める力を育てます。グループ内で共有したり、学級内で発表させたりことで、他者を意識し、分かりやすく伝える力や指摘する力を育てます。

多様な体験活動をキャリア教育の視点で結び付けた例

板柳町立板柳東小学校

■ポイント

- ・ 各種の縦割り班活動をキャリア発達を促す中核プログラムとして位置付け、系統的な指導を意識しています。
- ・ 体験活動の実施に当たっては、地域人材の積極的な活用に努め、児童と大人が共に活動する場を大切にしています。



ポイント

キャリア教育の視点から、つながる力（「人間関係形成・社会形成能力」）を培うことを重視し、自主性、向上心、思いやりの心、協調性等が育まれるよう意識しています。



【ハッピーレストラン】
年3回、5年生が中心となって計画・運営する異学年合同での給食会です。



【校内ウォークラリー】
異学年児童で構成された班ごとに、全員で協力して課題を解決していくゲーム大会です。



【自然散策活動】
高学年児童がリーダーとなり、各班でめあてを決め、低学年児童をサポートして活動します。

ポイント

キャリア教育の視点から、各種クラブ活動、田植え・稲刈り・もちつき会、地域清掃ボランティアなど、地域の大人と一緒に学習・活動することを重視しています。



地域の大人や先輩との学習や体験活動を取り入れた例

板柳町立板柳北小学校

■ポイント

- ・研究指定校の中学生や高校生と一緒に学習する授業を通して、つながる力（「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」）の育成を目指しています。
- ・年間を通じて行う「りんご体験学習」を、キャリア教育の視点を生かし、系統的に実施しています。

ポイント

先輩たちと一緒に学習する機会を設けました。
互いに教育的メリットを感じられるように配慮することが大切です。



〔高校生と調理実習〕

家庭科の授業に高校生を招き、一緒に実習をしました。
「(小学生) 高校生になったら、料理も上手にできるんだな。私もお姉さんやお母さんみたいに上手にできるようになりたいな。」「(高校生) 衛生や安全に配慮して教えるのは意外に大変。私ももっと勉強しなくちゃ。」というような感想や気づきを期待しています。

図工・美術の鑑賞授業として、中学生が小学校で出張ギャラリートーク（作品鑑賞会）を行いました。

小学生は中学生の作品を鑑賞しながら中学生にあこがれを抱き、中学生は作品のよさに気付かせたり、分かりやすく説明したりすることの難しさや大切さを実感します。

〔中学生との美術作品鑑賞授業〕



りんごの袋はぎ、シール貼り

ポイント

4年生の総合的な学習の時間で、「りんご体験学習」を実施しています。りんごの花の受粉、実すぐり、袋かけ、シール貼り、収穫作業、高校生との調理（りんごを使った料理）などを、キャリア教育の視点からのねらい（つながる力、動く／生かす力、創り出す力）を意識して、系統的につなげていきます。同時に、ふるさとを誇りに思う気持ちも養われていくことが期待されます。

文化や芸術にかかわる体験活動（「えんぶり」）例

南部町立名川中学校

■ポイント

- ・地域の伝統、文化的行事を取り入れ、学年全体で取り組んでいます。
- ・地域の団体（町おこし）との交流を生かし、指導への協力を得ています。
- ・具体的な設問を設定し、振り返りを大切にしています。

1 ねらい

(1) 総合的な学習の時間

地域の伝統芸能を材料にして課題意識をもち、体験的活動や調査を行うことにより地域の伝統や文化を進んで守り、発展させようとする実践的な態度を育てる。

(2) キャリア教育【ふるさとを誇りに思う気持ち】

2 内容 えんぶり（太夫、作業踊り、おはやし）

3 対象生徒及び指導者

- ・第1学年
- ・指導者 町臨時職員
- ・外部講師 剣吉えんぶり組

4 計画 総合Aタイム：33時間、2時間続き（基本的に午後）で行う。

※講師の日程を聞いて調整し、発表に合わせてまとめ取りをする。

※事前の活動：メンバー構成を基本にして、アンケート調査を行い、調整の上予めメンバーを決定しておく。

「えんぶり」活動計画

月	日	内 容	月	日	内 容
1	7	31	15	8	(木) ⑤⑥校時【13時40分～15時
2		(金) 役割分担希望調査	16		30分まで】第2期 通し練習
	8	※8月中はお囃子【笛・太鼓・手平鐘】のみ練習～5・6・7	17	13	(火) ③④校時【10時40分～12時
		日と19・20・21日の夕方	18		30分まで】第2期 通し練習
3		3	19	14	(水) ③④校時【10時40分～12時
		(木) ③④校時【10時40分～12時	20		30分まで】第2期 通し練習
4		30分まで】第1期パート練習	21		放課後【16時50分～18時00
5		⑤⑥【13時40分～15時30	22	14	(水) 分まで】第2期 通し練習
6	9	分まで】第1期 パート練習	23	15	(木) 踊り ③④校時【10時40分～12時
		14	24		30分まで】第2期 通し練習
		(月) 分まで】第1期 パート練習			衣装合わせ
7		17	25	15	(木) 放課後【16時50分～18時00
8		(木) 分まで】第1期 パート練習	26		分まで】第2期 通し練習
9		24	27	※16	(金) ③か④校時【10時00分～12
10		(木) 30分まで】第1期パート練習	28		時20分の前半か後半で】
11		1	29	18	(日) 文化祭 本番
12	10	(木) ③④校時【10時40分～12時	30		【9時00分～10時00分】
13		5	31	未	日程未
14		(月) ⑤⑥【13時40分～15時30	32	定	定 第3期(8時間)
		分まで】第1期パート練習			・南部地方えんぶりに向けて

○評価方法は、自己評価、レポート、感想文により行う。

■観点を明確にし、伝統芸能の発表だけに目的が集中しないように留意する。

- ・評価用紙は担当者が作成し、学級担任が保管し、通信簿や要録の資料に宛てる。

○職員については、生徒のパートごとに分担を分け、講師の先生と協力して指導に当たる。

(講師の先生がつけない場合は、ビデオに撮るなどして工夫して指導に当たる。)

○パート

☆えんぶり（太夫、唄、才ふり、旗持ち） ☆楽器（笛、太鼓、手平鐘） ☆踊り

職場にかかわる体験活動例

板柳町立板柳中学校

■ポイント

- ・地元(青森県)から離れて働く先輩たちを訪問の対象とすることで、自分との接点を見いだすことができます。
- ・交流を通して、学ぶことの意義や価値に触れる機会となっています。

1 活動名

- ・職場訪問「青森県出身の先輩に学ぼう！～働くってどういうこと？」
- ・夜間中学交流体験

2 活動のねらい

- ・適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀・挨拶や返事ができる。
- ・社会人や夜間中学との交流を通して、働くことや学ぶことの大切さを感じ、よりよい生活や学について考えを深める。
- ・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築くことができる。
- ・興味・関心を生かして計画を立て、自分の体験を通して学んだことを自己の進路につなげて考えることができる。

3 キャリア教育との関わり

「夢を持ち、人との関わりの中で自らを高めていこうとする生徒の育成～キャリア教育の視点での教育課程の見直しと小・中・高の連携を通して～」という本校の研究主題を踏まえて、2学年では「職場訪問～自分を高める・他とつながる～」というテーマで学習を進めている。

「職場訪問」と「夜間中学交流体験」は、2学年の核となる体験活動で、研究主題の「人との関わりの中で自らを高めていこうとする生徒の育成」に焦点を当て、計画したものである。

1学期に弘前市内で職場訪問を行っており、東京での職場訪問は2回目である。東京で訪問する事業所のうち13事業所は青森県出身の方の協力が得られた。生徒にとっては、地元から離れて働く先輩たちと触れ合い、多様な進路選択を考える良い機会である。

また、夜間中学での交流では、自分の目標達成に向けて前向きに生きようとする生徒たちに触れることで、生徒自身が将来の自分のために今やるべきことは何か、自分の夢は何かを考えさせる貴重な学びの場であると考えている。

修学旅行を通して、生徒同士だけではなく、さらに多くの人とのかかわり、出会いから多様な生き方に触れる機会をもてるのが2学年の学習の特徴である。こうした体験を自己の進路につなげて考えるよう指導を継続していきたい。

4 活動の実際

(1) 指導計画

	日時	ねらい	内容
事前 指導	8月 5日(月)	興味・関心を生かして、職場訪問・東京自主見	・役割分担 ・質問内容の検討
	8月 6日(火)	学の計画を立てよう	・東京自主見学の計画作成
	9月12日(木) 9月19日(木)	夜間中学交流会の準備をしよう	・クラス分け ・自己紹介の練習 ・交流会の準備・練習
体験 活動	9月24日(火)	夜間中学交流体験 学ぶことの意義や、夢を持って生活することの大切さを理解し、自らの目標達成に向け、前向きに生きようとする強い意志を持つよう	・授業交流 ・全体交流会

	9月25日(水)	職場訪問・東京自主見学 ・適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀 ・挨拶や返事をしよう ・社会人との交流を通して働くことや学ぶことの大切さを感じ、より良い生活や学習について考えを深めよう	職場訪問・東京自主見学
事後指導	10月1日(火) 10月10日(木) 10月18日(金)	・自分の体験を通して学んだことをまとめよう ・まとめと評価	・礼状作成 ・修学旅行個人レポートの作成 ・夜間中学訪問についての発表の準備・練習 ・夜間中学訪問についての発表 ・アンケート

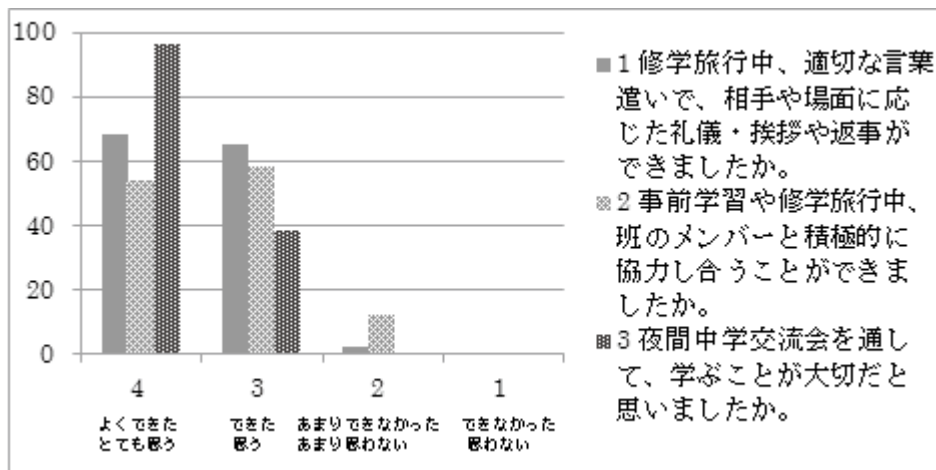
(2) 体験活動

ア 場 所：東京都、埼玉県

イ 実施内容：夜間中学交流体験、職場訪問と東京自主見学

5 活動の評価

修学旅行後に学習のまとめとしてアンケートを行った。その結果は、次の通りである。



「勉強で人にやらされるより自分から積極的に取り組みたい。」
「3年生の受検のときや、大人になって社会人になったら、学んだことを生かしたいと思う。」
「集団行動や礼儀などを将来の面接などで生かしたい。」
「コミュニケーションは大人や社会に出たときに生かしたい。」
「礼儀やマナーはやっぱり大切だ。」

夜間中学交流は生徒にとって大きな刺激になったことが分かる。



「いろいろな人の幸せを考えることが大切だ。」
「仕事をし、地域に貢献することが大切だ。」
「みんなで協力して過ごすことが大事。」
「困っている人がいたら、相手の立場に立って自分から行動したい。」

さらに職場訪問や仕事をする人と接したことで本活動のねらいが概ね達成されたと言える。



就業にかかわる体験活動（「ソーシャルスキル講座」）例

青森県立六ヶ所高等学校

■ポイント

- ・生徒の実態から、コミュニケーション能力の向上をねらいとしています。
- ・発達段階に応じて体験内容を工夫しています。

【2学年 60名対象】

- 1 日時 平成24年1月25日（水）9：00～15：00（本校第一体育館）
- 2 目的 ①早期からの進路選択の意識を持たせる。（キャリアプランニング能力）
②コミュニケーション能力の育成と表現力の強化を図る。（人間形成・社会形成能力）
- 3 講師 （株）ソーシャルデザイン研究所
- 4 講義内容
講義（プロローグ→Lesson1：コミュニケーション体験）
講義（Lesson2：仕事・社会の理解）
講義（Lesson3：就職活動の理解）
講義（Lesson4：自己PR・志望動機）
講義（Lesson5：模擬面接→エピローグ）



【3学年 59名対象】

- 1 日時 平成24年10月2日（火）
13：15～15：05
- 2 目的 「コミュニケーションスキルの育成」
社会人として、上司や同僚と意見の相違などの問題が起きても、それを乗り越えていく力を養う。
- 3 講師 八戸学院短期大学 三浦 文恵 准教授
- 4 講義、演習内容
「ロールプレイを通して実践的な
コミュニケーションの仕方を学ぶ」

【成果】

早期離職の理由がコミュニケーションの問題によることが多いことを考えると、高校生の時点からより実践的なコミュニケーションについて学ぶことのできる取組は大変意義深い。

* キャリア教育振り返りシート	
* 平成 年 月 日 ()	HR 番号 名前
行事名	
目 標	
評 価	
1 自分の果たすべき役割を考え他の生徒（職員）と協力して行動できましたか。	A B C D
2 不得意なことでも自ら進んで取り組むことができましたか。	A B C D
3 何か問題が起こったときにその原因を考え、解決しようと努力しましたか。	A B C D
4 働くことの意義を知り、自分の将来について考えることが出来ましたか。	A B C D
将来に役立てられると思ったことをキーワードであげなさい。	
.	
.	
.	
理想（学んだ事、苦労したこと 等）	
これからの抱負（今回学んだ事をこれからどう活かしたいか）	

就業にかかわる体験活動 （「高度熟練技術者による実技指導」）例

青森県立青森工業高等学校

■ポイント

- ・早い段階から、プロフェッショナルの技術や考え方、生き方に触れることで、学びへの意識が高まります。
- ・生徒だけではなく、教職員の研修の機会に生かすことができます。

【機械科 1 学年 対象】

- 1 目的 現場で活躍している経験豊富な社会人の方を講師として招聘し、直接指導していただくことによって、更なる技能の向上を図る。
- 2 講師 (株) エプソンアトミックス 製造部長 柴田 浩二 氏
- 3 講義内容

定盤のきさげ加工についての実技指導

- ・手仕上げ実習（やすり作業）
- ・きさげ作業について
- ・すりあわせ

社会人になっても常に勉強しなければならない。

一つの物事に情熱を持ち続けてそこまで頑張っているのはすごいことだと思います。
（生徒の感想より）

高度な技術を少しでも盗もうと説明をちゃんと聞き、それを生かして金属を削りました。
（生徒の感想より）

手こずっている私たちに的確なアドバイスをしてくださりました。
（生徒の感想より）

今から取れる資格は取って、技能検定にも挑戦してみたいです。
（生徒の感想より）

教師の研修会

講演「ものづくりを通じて経験したこと・感じたこと」（平成25年度）

実技指導
技術の基礎
の大切さ

文化祭や学校だより
地域や保護者へ発信

○生徒にとって意義のある体験活動は、広く地域や保護者に発信することも効果的です。

(2) 職場体験活動・インターンシップ

① 職場体験活動・インターンシップの考え方及び期待される効果

職場体験活動・インターンシップは、生徒の望ましい職業観、勤労観の育成を目指して行われます。そして、生徒に自らの将来を考えさせるには、学校内における教育活動だけではなく、具体的に多様な年齢、立場の人や社会や職業に関わる様々な現場を通して、自己と社会の双方についての多様な気付きや発見をさせることが効果的です。

◇職場体験活動・インターンシップの中心課題◇

中学校における職場体験活動

ある仕事や職業を暫定的な窓口としながら、職業や仕事を知ると同時に、働く人の実際の生活に触れて社会の現実に向き合うことが中心課題

高等学校におけるインターンシップ

将来進む可能性のある仕事や職業に関連する活動をいわば試行的に体験することにより、それを手掛かりに社会・職業への移行準備を行うことが中心課題

② 留意点

ア ねらいの明確化

職場体験活動・インターンシップのねらいは、その意義を踏まえ、各校の状況に応じて設定します。ねらいの設定に当たっては、次のような点に配慮することが考えられます。

中学校の例

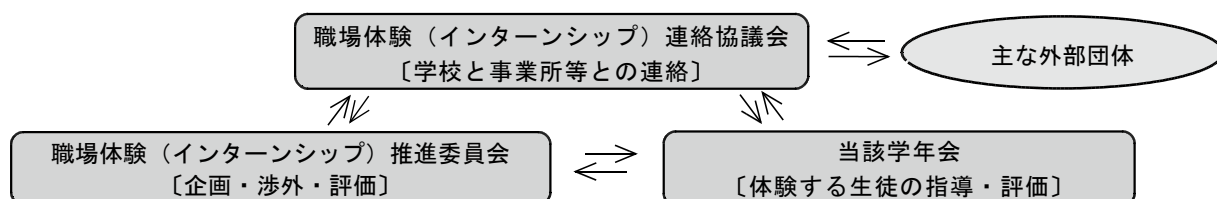
- ・ 社会（仕事や職業等）の喜びや厳しさの実感
- ・ 人との出会いや触れ合いを大切にする
- ・ 新しい自分を発見する
- ・ 将来について考える
- ・ 地域について考える

高等学校の例

- ・ 働くことや、生きることの尊さの実感
- ・ 進路選択への積極性の醸成
- ・ 学習意欲の向上
- ・ 基礎的・汎用的能力の育成

イ 職場体験実施に当たっての組織づくり

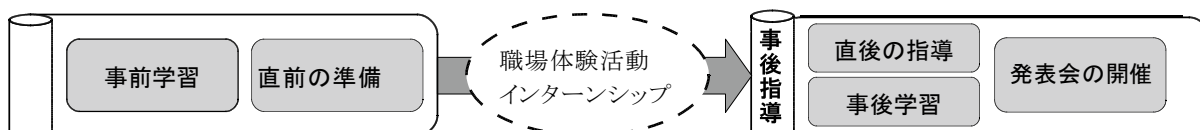
職場体験活動・インターンシップの運営を円滑にかつ継続的に行うために、効果的な組織づくりが求められます。



文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」を参考にして作成

ウ 事前指導・事後指導の充実

一過性のイベントにしないために、事前指導・事後指導を充実させる必要があります。



エ 学校の教育活動における位置付けの明確化

各教科等、教育活動全体との関連を意図し、3年間を見通して計画的、系統的に実施することが望まれます。

意義とねらいを明確にした職場体験活動例

平川市立碓ヶ関中学校

■ポイント

- ・事前指導で5日間の職場体験活動の意義を確認しています。
- ・職場体験活動のねらいを明確にしています。
- ・振り返りや評価をしっかりと行っています。

1 意義

職場体験5日の意義（「キャリア教育のススメ」より）

充実した職場体験活動を実践するにはある程度の期間が必要です。「緊張の1日目、仕事を覚える2日目、仕事に慣れる3日目、仕事を創造する4日目、感動の5日目」と言われるように5日間という長さにより、みなさんの心にきつと変化が起こると思われま

す。また、人とふれあう時間の長さがみなさんの様々な気づきや成長を促してくれることでしょう。

1 緊張の1日目	あいさつ、自己紹介、事業所内見学など ○緊張・不安・意欲	ポイント 職場体験活動の1日1日の意義や目標を押さえて本番に臨んでいます。
2 仕事を覚える2日目	清掃、接客、具体的作業など ○仕事の流れが分かる	
3 仕事に慣れる3日目	作業、販売、店内放送など ○分からないことが聞けるようになる ○自分から進んで行動し、役割を果たすことができる	
4 創意工夫の4日目	○つまずき・失敗・新たな発見	
5 感動の5日目	体験先の思いを踏まえた自主的行動 ○自分や大人を客観的に見つめる ○達成感を感じる	

2 目標

自分の将来を考えたり、進路を見つめる際に生じる課題を見つけたり、職場体験学習を通して様々な生き方に触れ、見通しを立てて情報を収集し、それらをまとめることで自分の将来の生き方を考えて、テーマの実現に取り組んでいこう。

ポイント

キャリア教育の視点と総合的な学習の時間の目標がきちんとリンクしています。

3 ねらい

(1) キャリア教育2学年のねらい（職場体験学習）

- ① 職業観を身に付け、働く意義を深く考え、その価値を学び、身近な地域・社会に貢献しようとする気持ちを育てる。
- ② 働く人々と接したり、教わったりすることにより、社会のマナーを学ぶとともに、自分の将来を見つめ直し、主体的に行動しようとする力を育てる。

(2) 総合的な学習の時間のねらい

- ① 職業観を身に付け、将来の生き方に新たな課題を見つけることができる。
- ② 新たな課題についてテーマを決め、調査する力を身に付ける。
- ③ 調査結果をもとにまとめ、発表する力を身に付ける。
- ④ 学習の活動や振り返りを行い、これからの生活や生き方に生かそうと努める。

4 職場体験の評価項目（職場体験先が評価）

1日目 あいさつ・自己紹介・仕事 内容説明など	①大きな声で元気にあいさつできていた。 ②自己紹介が大きな声で元気にされていた。 ③説明をしているときなど、人の話を聞く態度ができていた。 ④質問に答えたり、分からないことを聞いたりするなど、進んでコミュニケーションをとることができた。
2日目 仕事を覚える	①笑顔で明るく、元気にあいさつや返事ができていた。 ②指導したことなどきちんと覚えて仕事に取り組んでいた。
3日目 仕事に慣れる	①笑顔で明るく、元気にあいさつや返事ができていた。 ②教えたこと以外にも積極的に取り組んだり、工夫をしたりして仕事に取り組んでいた。
4日目 創意工夫・主体的に仕事 に取り組む	①笑顔で明るく、元気にあいさつや返事ができていた。 ②教えたこと以外にも積極的に取り組んだり、工夫をしたりして仕事に取り組んでいた。
5日目 感動・達成感をもつ	①笑顔で明るく、元気にあいさつや返事ができていた。 ②自ら積極的に仕事に取り組んでいた。 ③感謝の気持ちをもって、体験学習を終えることができていた。
職場体験学習5日間での生 徒の様子	①5日間で生徒の成長した様子が見られた。 ②5日間進んでコミュニケーションをとることができていた。

評価項目は5日間それぞれの意義を踏まえて設定しています。

※評価は、A：十分達成 B：やや達成 C：努力が必要 の3段階で行う。

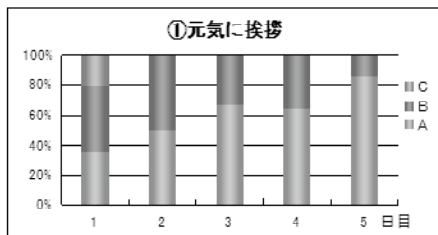
5 生徒による自己評価項目

- (1) 職場では、大きな声で元気よくあいさつができましたか。
- (2) 職場体験では、担当者の説明をよく聞き、返事や受け答えをきちんとしましたか。
- (3) 職場体験では、仕事をよく覚えて、積極的に責任をもって取り組むことができましたか。

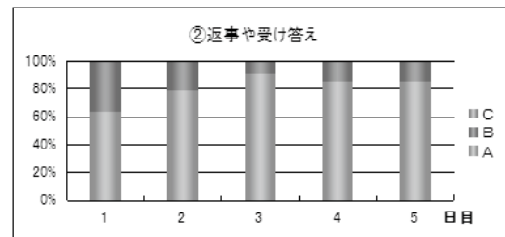
【平成24年度の集計結果】

評価結果から成果と課題を明らかにしています。

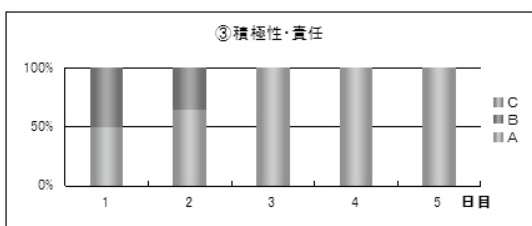
5日間の職場体験の変容



5日間の職場体験の変容



5日間の職場体験の変容



<成果と課題>

- 5日間の職場体験は所期のねらいを達成できた。(生徒の変容から)
「仕事に慣れる3日目」までは順調に体験を積み重ねてきたが、「創意工夫の4日目」でつまづいたり、失敗する場面も見受けられた。特に挨拶と返事や受け答えの評価が下降している。しかし、「感動の5日目」には自分で考えて克服できるようになり、達成感を味わうことができた。
- 地域の人材や社会人のキャリアに関する講話が適切に行われた。
- △ 隣ヶ関地域との連携は「たけのこマラソン」や「羽州街道トレッキング」等で図られているが、職場体験は地域の協力が希薄であった。積極的に推進していきたい。
- △ 5日間の職場体験は有意義であることはわかったが、事業所との打ち合わせを通して、ねらいの徹底と実習プログラムの確認等が必要であった。(次年度は職場実習を行うことの学校と事業所との双方のメリットを探していきたい。)

事後指導を充実させたインターンシップ例

青森県立大間高等学校

■ポイント

- ・「インターンシップ記録集」を作成して冊子としてまとめ、実習先へ配付しています。
- ・アンケートを「生徒」「教員」「事業所」に対して実施し、次の活動の改善に役立てています。

1 目的

実際の職場において、事業主、従業員の方の指導を受け、実習を行うことにより、勤労観・社会性の育成を図るとともに、地域産業の現場を知ることにより、働くことの意義や地域の人との関わりを学ぶ。

2 対象

2 学年

3 実習先

大間町・佐井村・むつ市内の店舗。事業所・公的機関など計 41 か所

4 実習期間

原則として、9月12日（水）～14日（金）の3日間

5 直前指導

9月5日（水）5・6校時

6 事前訪問

教員による訪問：7月下旬～8月上旬に進路指導部員が訪問

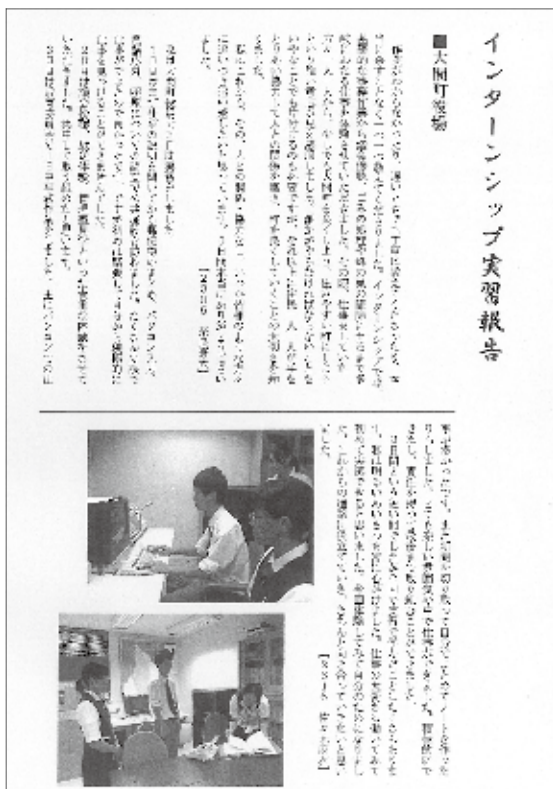
※インターンシップ依頼文書等持参

生徒による訪問：9月1日（土）または2日（日）

7 その他

- ・終了後、実習記録集を作成し、実習先へ配付する。
- ・インターンシップに関連し、来年2月に職業人講話を開催する。

インターンシップ記録集



ポイント

インターンシップを通して、地域の人とのつながりの大切さを実感し、自分の将来像を明確にすることができています。

インターンシップに関わるアンケート

平成24年度 大間高校インターンシップに関するアンケートの結果について

青森県立大間高等学校 進路指導部

1 生徒に対するアンケート			
就職先や進路の決定に役立ちましたか	ア 非常に役立つ 11.5%	イ 役立つ 11.5%	ウ 役立つが少し 29.0%
就職活動の役に立たないと感じましたか	ア 非常に役立つ 22.4%	イ 役立つ 29.0%	ウ 役立つが少し 29.0%
インターンシップの実践が役に立ちましたか	ア 非常に役立つ 16.4%	イ 役立つ 26.4%	ウ 役立つが少し 21.4%
インターンシップの経験が就職活動に役立ちましたか	ア 非常に役立つ 29.8%	イ 役立つ 29.8%	ウ 役立つが少し 29.8%
2 教員に対するアンケート			
インターンシップの経験が就職活動に役立ちましたか	ア 非常に役立つ 29.0%	イ 役立つ 29.0%	ウ 役立つが少し 29.0%
就職活動の経験が就職活動に役立ちましたか	ア 非常に役立つ 31.0%	イ 役立つ 29.0%	ウ 役立つが少し 29.0%
インターンシップの経験が役に立ちましたか	ア 非常に役立つ 4.9%	イ 役立つ 27.9%	ウ 役立つが少し 28.1%
インターンシップの経験が役に立ちましたか	ア 非常に役立つ 28.9%	イ 役立つ 27.9%	ウ 役立つが少し 29.0%
3 事業所に対するアンケート			
インターンシップの経験が役に立ちましたか	ア 非常に役立つ 29.0%	イ 役立つ 16.7%	ウ 役立つが少し 29.0%
インターンシップの経験が役に立ちましたか	ア 非常に役立つ 29.0%	イ 役立つ 29.0%	ウ 役立つが少し 29.0%
インターンシップの経験が役に立ちましたか	ア 非常に役立つ 29.0%	イ 役立つ 29.0%	ウ 役立つが少し 29.0%
インターンシップの経験が役に立ちましたか	ア 非常に役立つ 29.0%	イ 役立つ 29.0%	ウ 役立つが少し 29.0%
インターンシップの経験が役に立ちましたか	ア 非常に役立つ 29.0%	イ 役立つ 29.0%	ウ 役立つが少し 29.0%

ご協力ありがとうございました。

ポイント

インターンシップを受け入れた事業所の声が率直に反映されるように工夫しています。

事前指導(直前の指導を含む)を充実させたインターンシップ例

青森県立名久井農業高等学校

■ポイント

- ・実習日誌への事前の記入により、各自の目標を明確にしてインターンシップに臨んでいます。
- ・生徒個々の希望進路に対応した、多様な事業所でインターンシップを実施しています。

1 目的

- (1) 各事業所での就業体験を通して、勤労の尊さを知る。
- (2) 社会で高校生に期待される積極性や協調性・責任感の重要性を感じ、職場でのマナーを理解し、実社会の厳しさを知る。
- (3) 自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択能力の向上や職業意欲の育成を促す。
- (4) 教師や保護者以外の大人と接する貴重な機会とし、コミュニケーション能力の向上を図る。

2 期間 10月10日(水)～10月12日(金)3日間

3 職種 農業に関する専門教科を学習しているが、生徒個々の進路は多岐にわたっていることから、農業・販売・製造・福祉・サービス等も対象とする。

インターンシップの流れ

月	日	内 容
4～5		◎ホームルーム活動(以下同じ)：インターンシップ全体指導・希望事業所調査について
6	下旬	希望事業所調査 締め切り
7	上旬	《希望事業所一覧の完成》
		◎ホームルーム活動：実施希望先確定(受入事業所や希望職種)の自己紹介カード(履歴書)の作成
	中旬	◎希望事業所への受入確認の打合せ(職員会議後)
8	夏休み	受入事業所未確定者・自己紹介カード未完了者 → 登校し確定・完成させる
	上～下旬	生徒→希望事業所へ受入確認と内諾の電話 ○→確定(担任へ報告) ×→第2希望事業所へ電話(確定するまで繰り返す)
	下旬	実施先確定(受入事業所や就業内容・人数等の最終確定)一覧表に入力
9	上旬	《巡視担当者一覧作成→打合せ会議》※早く準備できれば8月下旬に行う
	上～中旬	各事業所訪問(巡視担当者→自己紹介カード・依頼文書・打合せ表・評価例・日誌例を持参)
	中～下旬	生徒→受入事業所へのお願いと業務内容確認の電話 ○ジョブカフェ講師による事前指導(1時間) ◎ホームルーム活動：実習日誌の作成・記入
10		○ホームルーム活動：インターンシップの意義や心構え・最終確認 ◎実習日誌の完成(確認完了→提出)

農業高校ですが、生徒の希望に即して様々な職種でインターンシップを行っています。

9	○帰りの会HR：インターンシップ結団式
10	●インターンシップ実施（1日目） 先生方→事業所訪問
11	●インターンシップ実施（2日目） 先生方→事業所訪問
12	●インターンシップ実施（3日目） 先生方→事業所訪問
15	実習日誌・感想文の提出（生徒→担任へ）
下旬	事業所への礼状発送

実習日誌の様式

目的

各事業所で日常業務を体験することにより、進路選択に役立てるとともに勤労精神の育成と職業観の高揚を図る。

心得

- 1 目的を忘れることなく、落ち着いて行動する。
- 2 時間を厳守し、5分前行動を心がける。
- 3 安全を心がけ、ケガのないように十分に留意する。
- 4 勝手な行動は絶対にしない。
(わからないことは、担当者に必ず相談する。)
- 5 あいさつ、返事はきちんとし、礼儀正しくする。
- 6 服装は職場で指定した服装とし、清潔を心がける。
- 7 実習期間中は携帯電話の電源を切る。
- 8 毎日実習終了後に日誌を記入する。
※ 職場の物品を破損したり、ケガをした場合は、必ず学校に連絡すること。
(賠償責任保険に)

緊急連絡先

青森県
TEL

実施上の確認事項

- 1 服装
- 2 靴
- 3 持参するもの
- 4 昼食
- 5 その他

今回、挑戦してみたいことは何ですか（自分の目標）

- ・
- ・
- ・

気をつけることは何ですか

- ・
- ・
- ・

ポイント

目標や気を付けることを記入し、いつでも意識したり、確認したりできるようにしています。

ポイント

自己評価票の各項目に時間をかけて確認することにより、事前の意識付けを図ることができます。

自己評価票

1 挨拶・言葉遣いがきちんとできていたか	A・B・C・D
2 身だしなみ・服装がきちんとしていたか	A・B・C・D
3 時間を守ることができたか	A・B・C・D
4 説明など人の話をしっかり聞くことができたか	A・B・C・D
5 作業や器具・器材等の取り扱いが丁寧であったか	A・B・C・D
6 まわりと協調できたか	A・B・C・D
7 勤労意欲をもって実習できたか	A・B・C・D
8 この職種についての興味関心が感じられたか	A・B・C・D
総合的判断	A・B・C・D

【評価の観点】 A:特に優れていた B:選んでいた C:普通 D:できていた

反省・感想など

実習日誌【記入例】

月__日(水) 1 日目	天気	晴れ	
実習場所	〇〇スーパー〇〇店	担当者	〇〇さん
出社時間	午前 8時45分	退社時間	午(前) 4時45分
実習内容 午前	清掃	実習内容 午後	トイレタオル交換
	陳列		リサイクルバック分別
	かご・カート片付け		応募用紙チェック
自己評価 (当てはまるものに○をつける)			
社 務 係: ①10分前出社 ②平リヤリ ③遅刻 ④欠席 清掃(掃除): ①たいへん早くできた ②早くできた ③普通 ④やや遅かった ⑤できなかった 陳 列: ①たいへん早くできた ②早くできた ③普通 ④やや遅かった ⑤できなかった 倉 庫: ①たいへん早くできた ②早くできた ③普通 ④やや遅かった ⑤できなかった 配 送: ①たいへん早くできた ②早くできた ③普通 ④やや遅かった ⑤できなかった			
質問など (作業内で分からなかったこと、仕事や職業について聞きたいことを記入しよう。)			
作業内で分からなかったこと、仕事や職業など進路について聞きたいことを記入しましょう。			
回答 (自分で質問への回答を記入する欄です)			
質問への回答は自分で記入しましょう。			
反省・感想 (早くできたこと、うそく出来なかったこと、努力したこと、失敗したことなどを記入します。)			
・一日の反省や感想を記入しましょう。 ・体験を通して感じたことや、考えたことを書きましょう。 ・最後の行まで書くようにしましょう。			

職種により異なるので、各自が前もって、責任をもった確認をすることが求められます。